



齋藤教授の「ILCと医療について」講演

知ってほしい 岩手ってすげー

ドイツ・マインツ大学教授を務める齋藤武彦先生を講師に迎え、「ILCと医療について」と題して、11月13日(金)胆沢病院玄関ホールにおいて講演がおこなわれました。これに地域住民や病院職員ら約70人が聴講しました。

この講演会は、市民や病院関係者にILC(国際リニアコライダー)の誘致に向けて理解を深めてもらおうと、奥州市国際交流協会と当胆沢病院が共催して開催したものです。

齋藤教授は、研究分野の素粒子についての話しを交え、笑いを誘いながらILCについて熱く話してくれました。

宇宙は漫画「ドラえもん」のポケットで4次元世界です。時間を未来にも過去にも行き来できます。日本に住んでいるあなたは日本人、地球に住んでいるあなたは地球人、宇宙にある地球に居るあなたは宇宙人です。自分の故郷を勉強する。私たちは宇宙人なんだから宇宙を勉強する。それがILCです。

ILCの誘致が決定されると外国人研究者や関係する企業の技術者が長期間この地域に居住することになります。すると奥州市は世界一の国際都市、研究都市になっていきます。そこで「岩手ってすげー」ということになります。英語を話す必然性が生まれ、誰でも英語が話せるようになる。研究成果はみんなのものになる。学生の科学実験の勉強は研究所で行うようになり、最先端の機器のもとで興味を惹かれるものになり、学生も世界からたくさん来ます。

地域で外国人研究者らが中・長期間滞在す

ることに限らず、受け入れる上で、日常生活に直結する様々なサービスや制度のしくみを分かりやすく説明することが必要です。

日本と海外とでは医療保険制度が異なっていることを知らせることが、とても大切といえます。日本の医療保険制度を今すぐ変えることは難しいが、しっかりとした説明がなければ、外国人は通院をためらうかもしれない。それは

気持ちの面からみても苦しいことと自身の海外での生活を紹介しています。

それ以外で可能なことは、外国人研究者らに丁寧な説明をすること。行政だけでなく近所の人たちも日本語で構わないから支えるような雰囲気を作ってほしい。そうしたサポート環境の有無も、外国人研究者たちが生活する場を選ぶうえで一つの基準になると講演を結んでいます。



ILC(国際リニアコライダー)とは、全長31キロメートルから50キロメートルの地下トンネルに「建設される大規模研究施設」のことです。

大型の直線型加速器としては、世界最高・最先端の電子・陽電子衝突型加速器です。

世界中の研究者が協力し、「世界に一つだけ」建設しようという計画が進んでいます。